

産婦人科を受診される患者さんへ 研究に対するご理解・ご協力のお願い

さいたま市立病院では、以下の臨床研究を実施しております。本研究は、通常の診療で得られた記録を調べるもので、本研究に参加されることによる患者さんへの新たなご負担は一切ありません。ご自身が本研究の対象者にあたると思われる方の中で、ご質問があります場合、または本研究に『ご自身の診療情報を使ってほしくない』とお思いになられる場合は、後述の「問い合わせ先」までご連絡をお願いいたします。

【対象となられる方】

2014年4月から2023年3月までの間に、さいたま市立病院で妊娠中に良性卵巣腫瘍に対して腹腔鏡もしくは開腹手術をうけられた方

【研究課題名】

「妊娠中の良性卵巣腫瘍に対する腹腔鏡手術の術後子宮収縮発現率への影響－開腹手術との比較」

【研究責任者】

さいたま市立病院 産婦人科 医長 嶋田未知

【目的】

妊娠中の良性卵巣腫瘍に対する腹腔鏡手術は、開腹手術に比べて術後疼痛が少なくなり、入院期間の短縮や早期の社会復帰が可能であるとされています。しかし術後流産率や子宮収縮率への影響については一定の見解がなく、より多くの情報の集積が望まれています。

そこで本研究では、腹腔鏡手術と開腹手術後の子宮収縮発現率などを比較することで、腹腔鏡手術の有用性について評価することを目的としています。

本研究により今後の手術療法の選択に役立つ情報が得られると考えています。

【研究の方法】

既存の診療記録から下記の診療情報を収集して「仮名加工情報」とした上で集計・解析します。本研究はカルテの記録を過去に遡って調査するものになりますので、研究のために患者さんに新たに検査や処置を受けていただくなど、ご負担が生じることはありません。

【利用するカルテ情報・資料】

診断名、年齢、性別、身長、体重、既往歴、手術記録、画像検査、治療経過、術後使用薬、血液検査 等

【研究期間】

倫理委員会承認後より 2023年9月30日までを予定しております。

【個人情報の取り扱い】

本研究で収集する患者さんの診療情報は、「個人情報管理者」が責任を持って「仮名加工情報」とした上で、解析を行います。患者さん個人と「仮名加工情報」とを結びつける「対応表」は、電子カルテ上でパスワードをかけて厳重に保管・管理し院外への持ち出しは行いません。

本研究の結果は学術集会「第63回 日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会」において公表、論文投稿等においても公表することを予定しておりますが、その際にも、個人の特定ができないように十分配慮した形で行います。また、本研究のデータは、研究終了後3年間保管した後に「仮名加工情報」のまま廃棄します。

【問い合わせ先】

ご自身の情報が本研究に使用されることについてご了承いただけない場合や、途中で研究の対象から除外して欲しいとのご希望があります場合は、研究対象とは致しませんので、遠慮なくお申し出ください。ご協力いただけない場合でも、患者さんやそのご家族の方が病気の治療を行う上で不利益を受けることはありませんのでご安心ください。

本研究に関するご質問、お問い合わせがあります場合、またはご自身の診療情報について開示・訂正のご希望があります場合には、下記連絡先までお問い合わせください。

皆様のご理解、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

連絡先

さいたま市立病院 産婦人科 医長 嶋田未知（個人情報管理者・研究責任者）

〒336-8522 埼玉県さいたま市緑区大字三室 2460 番地

電話：048-873-4111（代表） FAX：048-873-5451

受付時間：平日9時から17時まで